

(様式1)

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年2月12日
江別市立上江別小学校

1 今年度の重点目標

「仲間とともに安心して学び 支え合う児童の育成」

○3つの資質能力を育む教育課程の編成・実施・評価改善の推進（教育課程で課題を克服）

○お互いを大切に し 生き生きと学び合い高め合う子どもの育成（思いやり・信頼関係の構築）

○規範意識のもと夢や目標の実現に向けて最後までやりぬく子どもの育成（学年経営の充実）

育成すべき資質・能力

○自信 根気 ←学力・体力（知識技能・思考判断表現力）

○おもいやり ←人との関わり・親切（人間性）

○規範意識 ←挨拶・規律（人間性）

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	3つの資質能力を育む教育課程の編成・実施・評価・改善の推進（学びの定着と向上）を図ることができたか。	A	・教育課程について前年度の段階で、しっかり整理できていない部分があった。時数も含めた具体的な内容を見直し、整理して教育計画にしっかりと位置付ける。 ・各分掌が資質能力の育成に向けて運営の方針や重点目標を明確に設定し、分掌業務について、誰が、いつまでに行うのかを明確にし、PDCAサイクルを推進する。	A	A
	お互いを大切に し 生き生きと学び合い高め合う子どもの育成（多様性の認め合い）を図ることができたか。	A	・生徒指導面で、子どもたちに寄り添い、丁寧に対応することができた。 ・挨拶について、教員が笑顔で率先して挨拶する姿勢は継続していく。また挨拶の重要性について考えさせ、理解させる指導を繰り返していく。 ・次年度、児童も職員も少しでも時間的余裕が持てるよう日課表を工夫する。	A	A
	規範意識のもと夢や目標の実現に向けて最後までやりぬく子どもの育成を図ることができたか。	A	・最後までやりぬく子どもの育成に向け、やる気を持続させることを重視し、成果だけでなく、努力の過程をほめ、励ますことを大切に指導する。 ・きまりを守れない児童について「なぜいけないのか」「何のためのルールなのか」といった部分をしっかりと考えさせ、理解させる指導を継続し行っていく。 ・学校のルールについて、その必要性も含めて職員全員で見直し、職員共通理解のもと、しっかりとした根拠をもって指導する。	A	A

教育課程・学習指導	教え込み型授業から脱却し、ICT の活用と対話を重視した授業改革の推進を図ることができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のタブレット活用の制限をもう少し緩和し、休み時間等でも個々にタイピングスキルを磨いてもいいようなルール作りをする。 ・「教え込み授業からの脱却」や「児童を主人公にした授業」について、その具体について校内研修を進め、職員のスキルを高め実践する。 	A	A
	学習指導計画に基づき、児童一人一人に応じた学習指導を充実させ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「読み・書き・計算」といった基礎的な内容に重点を置き、児童一人一人の学習状況を把握し、理解度に応じて ICT の活用、少人数指導や習熟度別指導等も進めてきた。引き続き基礎に重点を置き指導を継続するとともに、教科担任制を推進し、教師の専門性をより授業に生かす。 	A	A
特別支援教育	児童理解・保護者との連携促進に努め、全ての児童のニーズに応じた特別支援教育の推進を図ることができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学びサポート委員会に名前が上がってくる児童を教職員全体で把握し、情報の共有を進める。 ・交換授業や教科担任制を通して、他のクラスの児童の実態も把握し、児童理解につなげる。 	A	A
生徒指導	学年の統一的な指導・支持的風土の学年学級づくりを通して、日常的に規範意識を高める指導の徹底と自主的活動の推進を図ることができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で意識して学年統一的な指導に取り組めた。 ・次年度も学年間の連携を密にし、教科担任制や交換授業を進めながら、学年全体で子どもたちを見とれる体制をつくる。 ・特別支援教育については、コーディネーターを中心に支援員、学習サポーターや登校サポーターなどの力を借りてかなり充実させることができていたので、次年度もこの体制を継続させる。 	A	A
	いじめや不登校・問題行動等の早期発見、早期解決のため、積極的な指導・支援の強化と情報共有の徹底を図ることができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会や不登校支援委員会を定期的に行い、組織的に取り組むことで、校内の情報共有がなされ、いじめ見逃しゼロや不登校傾向の改善につなげることができた。今後も定期的に特別委員会を設定し継続する。ただ、会議にかなり時間がかかっている面があり、職員の負担をできるだけ減らすよう会議の持ち方を工夫する。 	A	A
保護者・地域住民との連携	社会に開かれた教育課程実現のため、地域や保護者、幼保こ中とのきめ細かな連携を進めるとともに、保護者・地域への教育活動の発信を図ることができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間において、ゲストティーチャーとして多くの地域の方々にご協力をいただくことができた。次年度も地域の方々の協力のもと学習を進める。 ・学校運営委員会では、毎回熟議がなされ、学校経営についてご理解いただいたり、運営の助言をいただいたりすることができた。次年度も継続する。 ・小中一貫教育の取組について、ホームページや学校だより等を通して、保護者・地域の方々に周知を図ってきたが、まだ、十分に理解いただけていない面がある。今後さらに取組の良さが伝わるよう工夫した発信を行っていく。 ・今年度も上江別幼稚園や認定こども園「もりのひだまり」との交流を進めることができた。また、幼保こ小の合同入学前交流会が市教委の企画で実現した。次年度もこれらの機会を十分に生かして、きめ細かい連携を進めていく。 	A	A

<p>学校関係者 評価委員に よる意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実に関して、宿題が学年統一で出されているのは好ましいと思うが、基礎がまだできていない児童にとって、文章題などの難しいものが多く定着の工夫がさらに必要だと考える。 ・児童のタブレット活用の制限を緩和する改善策に関して、児童アンケートでは、休み時間に外で遊ぶ子の割合が低い傾向にある。タイピングスキルも大切であると思うが、休み時間は子どもの自由な時間として、思いっきり遊ばせてあげられるようにした。 ・児童が自由に使える時間の確保が必要ではないか。児童たちはまじめに様々なことに取り組んでいるが、長休みが短い、しなくてはならないことが多いなど、昔と比べて大変そうである。学校も大変だと思うが、大人が時間を設定する必要があるのではないだろうか。 ・ルールが守れない子の指導について、もちろん「なぜいけないのか」「どうしてルールがあるのか」を伝えることは大事だが、ルールに対する理解度やルールを守れない理由を本人の気持ちを汲んだうえで、本人にあった指導をしていただきたいと思う。 ・個別最適、主体的・対話的な学びの推進など、現在の教育に対する国の方針では、幼稚園も小学校と同じである。指導に当たる教師も接し方の変換が求められていて大変だと感じている。 ・特別支援教育に関して、児童の家庭環境も含めた児童の特性を学校だけでなく、保護者やデイサービスとも情報共有を図るべき。 ・保護者アンケートにもあるように、小中一貫教育の取組は見えにくい部分があるように思う。保護者が積極的に学校と関わっていければ理解は得られると思うが、難しいと思う。 ・先生方の考え方、方向性、具体的な指導内容、目的、目指す姿を実際に目にしないまま、十分な理解をしているのかわからないまま評価をしてもよいものか不安になった。できたら、学校側の説明を聞いてから評価できたらよいと思った。 ・日頃から子どもたちのためにご尽力されている先生たちには感謝しかない。やればやるほど内容は濃くなるが、終わりのない仕事を先生方がオーバーワークにならないよう、いろいろな機関に頼り、たくさんの人で上江別の教育をサポートできる体制が生まれることを望む。 ・子どもたちが、知らない人を不審者と感じることが気になる。できれば、人を信じることからスタートできる世の中（教育）になってほしいと思う。 ・特に1, 2年生の挨拶が多くなった。また、「いつもありがとうございます。」等、言葉かけもある。これまでになく、成長していることを感じる。
---------------------------------	---

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない